

神奈川県海外技術研修員受入事業

(JICA 草の根技術協力事業 (地域提案型) 分) 研修報告

20103 年 10 月 29 日

氏 名 文 涛

勤務先 遼寧省疾病予防コントロールセンター

- 1 研修コース名
公衆衛生分野における人材育成事業
- 2 研修期間
平成 25 年 7 月 1 日～平成 25 年 10 月 31 日
- 3 研修機関
神奈川県衛生研究所
- 4 研修の概要

私は JICA「公衆衛生分野における人材育成事業」プロジェクトのカウンター パート研修で来日し、2013 年 7 月 1 日から 2013 年 10 月 31 日まで、神奈川県衛生研究所で 4 ヶ月間の研修を受けた。

神奈川県衛生研究所は県民の健康の保持と公衆衛生の向上を図るために設立された中核試験研究機関であり、先進的な検査機器を有するばかりでなく、各専門分野に精通した研究者が大勢集まっている。

神奈川県衛生研究所は研修目標に基づき、詳細な研修スケジュールを作成した。遺伝子組換え食品分野の専門家が指導講師として配置され、熱心に講義をしてくださった。指導講師は丁寧に試験の指導をしながら、私たちの様々な質問に答えてくださった。研修効果を確認するため、毎月ミーティングが開かれ、必要に応じて速やかに日程調整をしていただいた。指導講師は仕事がまじめで、責任感があり、ご自身の長年の仕事経験や試験中の注意事項等を数多く紹介してくださった。またご自身の書いた論文と各種の関係資料をたくさん提供していただいた。研修スケジュール以外に、指導講師からさらに遺伝子組換え食品についての新しい研究や今後の課題についてもいろいろ教えていただいた。

神奈川県衛生研究所の責任者をはじめ、指導講師のご指導のもと、関係者一同の努力によって、研修は順調に進められ、円満に当初の目標を達成することができた。

5 重点的に取り組んだ課題

研修の重点について

- 一、遺伝子組換え食品の検査
 - 1、トウモロコシ加工品の定性検査
 - 2、コメ加工品の定性検査
 - 3、大豆及び大豆加工品の定量検査

- 4、検査結果の分析と有効利用
- 5、大豆遺伝子の加熱による分解度の検討
- 6、日本の遺伝子組換え食品検査の現状

二、その他の検査

- 1、クリプトスポリジウムとランブル鞭毛虫検査
- 2、食中毒病原菌検査
- 3、HIV 検査

今後の課題について

中国は発展途上国であり、経済的諸事情の関係で、我が国の遺伝子組換え食品の検査技術は日本などの先進国に比べて、まだまだ大きな差がある。遼寧省疾病予防コントロールセンターは該当する専門分野の人材育成を強化しており、研究費や検査機器等の問題が解決できたら、遺伝子組換え食品の検査を始められると思う。

6 評価（研修全体を通じて学んだこと・感想など）

4ヶ月の研修期間中に、私は遺伝子組換え食品の検査技術を系統的に学んだ。さらにクリプトスポリジウムとランブル鞭毛虫、食中毒病原菌、HIV の検査技術も習得できた。今回の研修を通じて、日本の先進的な検査技術を深く理解できたので、今後の遼寧省疾病予防コントロールセンターにおける遺伝子組換え食品検査の精度向上につなげたいと思う。

私の本来の仕事は食品、生活飲用水、化粧品の微生物検査及び突発的な食中毒事件等の緊急対応である。研修期間中に、日本は食品の安全性を非常に重視していることが分かった。日本は食品についての規格や監督管理が厳しく、また優秀な検査技術を持った専門家が大量にいる。日本の遺伝子組換え食品、一般食品、生活飲用水についての検査項目が多く、基準が厳しく、とても参考になった。

研修期間中に、指導講師のプロ意識の高さとまじめな仕事ぶりが印象的であった。教科書から習得できない多くの貴重な経験を教えていただいた。日本で学んだ知識や経験は一生涯自分の仕事に役立つと確信している。

7 アクションプラン（研修の成果をどのようにして活かしていくか）

遼寧省疾病予防コントロールセンターは遺伝子組換え食品検査の人材育成に力を入れている。帰国後、条件が整ったら、日本で学んだ遺伝子組換え食品の検査技術を仕事に活用したいと思う。

- 1、研修成果を遼寧省疾病予防コントロールセンターの上司に報告する。
- 2、検査技術を遼寧省疾病予防コントロールセンターの関係者に伝える。
- 3、多くの同僚や関係者と交流し、日本で学んだ知識を伝える。
- 4、遺伝子組換え食品検査、クリプトスポリジウムとランブル鞭毛虫検査、食中毒病原菌検査の仕事に励み、食品の安全性確保に努める。

8 報告会の概要

パワーポイント形式で4ヶ月間の研修内容をまとめた。

- 一、遺伝子組換え食品の検査
 - 1、トウモロコシ加工品の定性検査
 - 2、コメ加工品の定性検査
 - 3、大豆及び大豆加工品の定量検査
 - 4、検査結果の分析と有効利用

- 5、大豆遺伝子の加熱による分解度の検討
- 6、日本の遺伝子組換え食品検査の現状
- 二、その他の検査
 - 1、クリプトスポリジウムとランブル鞭毛虫検査
 - 2、食中毒病原菌検査
 - 3、HIV 検査
- 三、見学及び訪問
 - 1、衛生研究所小田原分室
 - 2、神奈川県保健福祉大学
 - 3、鎌倉保健福祉事務所
 - 4、全農 営農・技術センター
 - 5、相模川流域下水道整備事務所
 - 6、横浜検疫所
 - 7、日本食品分析センター
 - 8、川崎市健康安全研究所
 - 9、実験動物中央研究所
 - 10、知事表敬
 - 11、テルモ株式会社
 - 12、国立医薬品食品衛生研究所
 - 13、寒川浄水場

9 日本での生活について（日本の文化や自然に対する感想など）

遼寧省と神奈川県との友好提携 30 周年に当たる年に、私は美しい横浜を訪問できたことをとても光栄に思う。123 日という限られた時間の中で、神奈川県及び衛生研究所、JICA 担当者の方々のおかげで、私は遺伝子組換え食品の検査技術を習得したばかりでなく、また多くの自然風景や人情に触れることができた。

日本国民はとても友好的で、親切であった。買い物や観光時に道を尋ねたら、必ず教えてくれるし、英語など言葉が通じないと、目的地まで連れて行ってくれることもあった。とても感動した。日本国民は時間厳守でよくルールを守る。電車やバスに乗る場合、列を並べて譲り合う。日本の公共交通機関はとても便利で、電車やバスは時刻表通りに来る。

お休みの時間を利用して、私は数多くの名所旧跡を訪問した。三溪園、箱根で日本の美しい自然風景を見ることができ、東京で大都会の繁栄を感じた。ほかに歴史の面影が残る古い街や建造物をたくさん見学した（京都、名古屋城、鶴岡八幡宮、長谷寺、浅草寺、鎌倉大仏等）。野毛山動物園、八景島シーパラダイス、ディズニーランド等有名な観光地にも行ったが、特に動物との触れ合いは貴重な経験であった。日本滞在中に、日本国民の環境意識の高さに驚いた。ごみのポイ捨てがほとんど見られず、ごみをきちんと分類し、皆で環境を守り、日本の美しさを守り、資源を大切にしている。

日本でもう一つ感心したことは日本の食文化であった。日本の各地で食べたお刺身や、お寿司、すき焼き、和菓子はどれもおいしかった。日本で初めて食べたたこ焼きの味は今でも忘れられない。

日本での 4 ヶ月間の生活は楽しくて、充実した毎日であった。特に日本国民と神奈川県民の温かいおもてなしは一生涯の思い出になるだろうと思う。